

校門坂

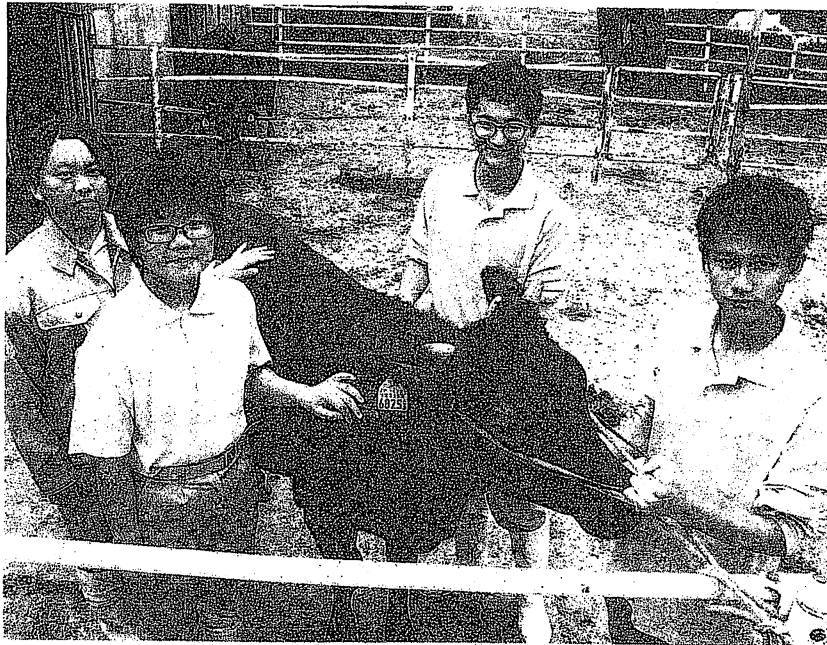
～ 輝く薩摩中央 ～

平成30年5月9日（水） 南日本新聞

本校の生物生産科の畜産班が新聞掲載されましたので紹介します。

さつま町の薩摩中央高校が4月に出荷した黒毛和牛2頭の枝肉が、日本食肉格付協会の格付けで霜降り度合いを示す脂肪交雑（BMS）ナンパーが最高値の12、等級はA5と最高ランクに輝いた。昨春出荷した1頭に続く2年連続の快挙で、2頭が獲得するのは同校で初めて。

枝肉の協会格付け



薩摩中央高牛が最高評価

2頭の最高ランク獲得を喜ぶ畜産班の4人

さつま町の薩摩中央高校

2年連続、初の2頭快挙

31カ月の雌「あかり」と33カ月の去勢牛「諒」で、ともに母の父が「百合茂」、母の祖父が「安福久」と地元の名種雄牛の血をひく。枝肉重量はあかりが550キログラム、諒は529キログラム。それぞれキロ単価3180円の約177万円、同3140円の約168万円で競り落とされた。約40頭を飼う同校では生物生産科の1、2年40人と3年の畜産班4人が、交代で餌やりや牛舎の清掃に励んでいた。松元智秀農場長（50）は「優れた血統に加え、衛生面の管理など生徒たちの地道な取り組みが良い成績につながったはず」と話した。（本坊弓子）

きた。入学時から2頭の世話に携わった3年の坂下陸さんは「移動させる時も含めて、牛がなついてくれるよう心がけた」、田口健太郎さんは「さらに良い牛を育てて、学校の伝統になれば」と高評価を喜ぶ。

4人のうち3人が畜産分野の進学や就職を希望しており、今回の快挙で自信を付けた様子。松元智秀農場長（50）は「優れた血統に加え、衛生面の管理など生徒たちの地道な取り組みが良い成績につながったはず」と話した。（本坊弓子）